

知ることが平和につながる

(原文)

波戸 凜佳 (12 歳)

兵庫県

須磨学園中学校

私にとって平和な世界ってなんだろう。家族や友だちがいて、一緒にご飯を食べて、何気ないことで笑いあえる。毎日学校があって、時々お休みがある。旅行に行ったり、本を読んだり、外を走り回ったり、何でもない日常の毎日に少し愚痴を言いながら過ごす。

数年前まで普通で当たり前だったこの生活は、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、突然簡単に打ち碎かれた。普通で当たり前学校に行く平和な世界は、当たり前ではないことに初めて気づかされた。

考えてみると、人々の平和な世界を奪うのは新型コロナウイルス感染症だけではない。世界で、紛争や貧困、環境問題、飢餓、児童労働など、様々な要因により子どもの平和が失われているようだ。

この中でも、児童労働の問題について私は最近まで知らなかった。世界の子どもの 10 人に 1 人が児童労働をしている、という話を学校で初めて読んだ時、とても驚いた。なぜそんなに多くの子どもが児童労働をしているのか、不思議に思って調べてみた。そうすると「貧困」や貧困と強く関係している「教育機会の欠如」によって、児童労働が起こるということを知った。また、より安い商品を求める消費者がいることで、子どもを安い労働力として使うビジネスがなくなならないということも知った。

家に帰ってから、そのことについて母に話してみた。すると、思いがけない言葉が返ってきた。

「よく食べているチョコレートはフェアトレードの商品だよ。フェアトレードの製品をお母さんは時々買っているよ。」

フェアトレードの意味も、私は知らなかったので調べてみた。フェアトレードとは、発展途上国の生産物を、その生産者の生活を支援するため、利潤を抑えた適正な価格で、生産者から直接購入することで、労働条件や環境保護などにも配慮して行われる。フェアトレードの商品には、マークがついていて、すぐ分かるようになっている。そして、フェアトレードの商品を購入することは、児童労働を減らす手助けになるようだ。身近で手に入れるものとしては、バナナやチョコレート、コーヒーや衣類があった。

そのチョコレートを買うスーパーに行ってみると、フェアトレードを扱う商品の棚に「買い物は投票だ」と書かれたポップアップが貼られていた。フェアトレードの商品を買うことが、その活動を応援することにつながり、児童労働を減らしていくことになる。だから、買い物はその活動を応援する投票

と同じだ、と分かった。

児童労働の現状や、フェアトレードの活動について、まだ知らない人も多いようだ。私はこの活動を周りの人に教えて広げていきたいと思った。

知ること、これはとても大切なことだと思う。私は今までフェアトレードや児童労働の問題を知らなかった。知らなくても現時点では私の周りの平和は変わらない。けれど、知っているからこそ、世界のどこかにいる学校に行けない子どもたちのために、私にできることをしたいと思うようになった。一人ひとりができることは小さいけれど、知することは、平和な世界の実現のために、必ず役に立つと思う。これからも色々なことを見聞きし、知らない世界を知っていきたい。